




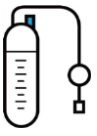


mFOLFOX6 + P-mab療法

～ 治療スケジュール ～

お薬の名前	1日目	2日目	3～14日目
●アロキシ ●デカドロン	 30分		お休み
ベクティビックス (パニツムマブ)	 60分		お休み
レボホリナート	 120分		お休み
オキサリプラチン (レボホリナートと同時)	 120分		お休み
フルオロウラシル (急速静注)	 5分		お休み
フルオロウラシル (持続静注)	 46時間		お休み

治療中の注意点

点滴部位に強い痛みや腫れ、かゆみを感じた場合はお知らせ下さい。

気分が悪い、寒気、動悸、息切れ、顔や体がかゆいなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

処方される支持療法薬

■皮膚障害に対して使用します

ミノサイクリン（テトラサイクリン系内服抗菌薬）・・・ざ瘡様皮疹の予防に使用します。

保湿剤（ヘパリン類似物質、尿素クリーム など）・・・皮膚乾燥の予防に使用します。

ステロイド外用薬（皮膚障害の発現部位、症状に応じた強さのもの）・・・ざ瘡様皮疹、皮膚乾燥、爪囲炎など出現したときに使用します。

上記の薬剤は患者様に応じて処方されるので、すべて予め処方されるわけではありません。

起こりやすい副作用

■白血球・好中球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があります。

治療開始後1〜3週間頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を行い、白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

■貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつき、倦怠感、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。

場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

■血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。

血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

■低マグネシウム血症

血液中のマグネシウム量が減少し、筋肉のけいれん、ふるえなどが出ることがあります。

初期の自覚症状はあまり見られないため、定期的に血液検査を行い、マグネシウムの量を確認します。

■悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療薬や症状に合わせて吐き気止めを使います。

食事や水分がとれない、または、1日4回以上吐いた場合は連絡してください。

⇒食欲がなくても、脱水を防ぐため水分はしっかりとるようにして下さい。また、無理せず食べたいものを食べられる量だけ取るようにしましょう。

■末梢神経障害（オキサリプラチン用）

点滴後から2〜4日程度、冷たい物を触れたり飲んだ時に、手足や口の周り、喉にピリピリとした痛みや感覚異常が出ることがあります。投与回数が増えると、しびれや感覚異常が出現し、回復するまでに時間がかかることがあります。

⇒字が書きにくい、物をつかみにくいなど日常生活に支障が出た時は、早めに主治医に相談して下さい。

■下痢

1日4回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、病院への連絡が必要です。

必要に応じて下痢止めが処方されることがあります。

⇒下痢または軟便の時は脱水を防ぐために、消化に良い物を取り、水分もしっかりとりましょう。

■口内炎

治療開始2週間ほどで口の中が痛い、ひりひりする、赤くなるといった症状が出ることがあります。

うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがありますが、痛みで食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

■倦怠感

治療開始2、4日後にだるい、体が重い、疲れやすいといった症状があらわれることがあります。
⇒適度に休息を取ったり、無理せず安静にしましょう。

■にきび様皮疹・皮膚乾燥

治療開始数日～1週間後に顔や胸、背中にニキビのような皮疹がみられ、1～2週間頃に最も強く出るとわれています。次第によくなりますが、治療開始3～6週間後、皮膚の乾燥が強くなってきます。
皮疹にはステロイド軟膏、乾燥には保湿剤を使います。
⇒皮膚症状の悪化を防ぐため、日頃から保湿を心がけてください。

■爪囲炎

治療開始4～9週間後に手足の爪の周りの皮膚に炎症がおこりやすくなります。
ひどくなると、爪の周りの肉が盛り上がり、強い痛みをとまいません。
⇒症状の軽いうちから保湿剤やステロイド外用薬を適切に使用し、ケアを行ないましょう。

■そう痒

抗がん剤の副作用による皮疹や皮膚の乾燥に伴って、かゆみを生じることがあります。
症状に応じて塗り薬や飲み薬を使います。
⇒かき過ぎてしまうと、かえって症状を悪くしてしまうこともあるので、注意して下さい。

■過敏症

点滴中にアレルギー症状が起こることがあります。「息苦しい」「胸が苦しい」「心臓がドキドキする」「発疹が出る」「顔がほてる」「汗が出る」「顔や体がかゆい」などの症状が起こった時はすぐにスタッフを呼んでください。

！連絡をいただきたい症状！

- 38℃以上の発熱があるとき。
- 食事や水分をとれないほどの吐き気や嘔吐があるとき。
- 1日7回以上の下痢があるとき。
- 乾いた咳が続く、または息切れを感じる時。（間質性肺炎）